

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																													
専門学校福岡ビジュアルアーツ・アカデミー		平成9年3月31日		大番 隆史		〒 812-0011 (住所) 福岡県福岡市博多区博多駅前3-8-24 (電話) 092-474-9233																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																													
学校法人21世紀アカデミア		昭和42年1月12日		田坂 広志		〒 101-0062 (住所) 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 092-474-9233																													
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	映像音響専門課程	放送・映画学科	平成19(2007)年度	-	平成26(2014)年度																														
学科の目的	TVの番組制作やミュージックビデオなど映像制作に必要な知識と技術、実際の番組や作品作りを通して、あらゆる作業を一人ひとりが実践的に習得し総合的な力を身につける。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	他学科とのコラボ実習が可能な環境を活かし、ミュージックビデオ制作やドラマ制作などを作成する中でコミュニケーション能力も磨くことができます。 (昨年度中途退学率:3.3%)																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,920 単位時間 単位	576 単位時間 単位	2,592 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																															
80人	106人	1人	0%	16%																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>50</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>43</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>40</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>17</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>93</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>43</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>80</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和 5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 番組制作会社/映画制作会社/CM制作会社</p>							■卒業者数(C)	50	人	■就職希望者数(D)	43	人	■就職者数(E)	40	人	■地元就職者数(F)	17	人	■就職率(E/D)	93	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	43	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	80	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	50	人																																	
■就職希望者数(D)	43	人																																	
■就職者数(E)	40	人																																	
■地元就職者数(F)	17	人																																	
■就職率(E/D)	93	%																																	
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	43	%																																	
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	80	%																																	
■進学者数	0	人																																	
■その他																																			
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																		
当該学科のホームページURL	https://www.kva.ac.jp/course/broad_movie/																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>3,168 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>128 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>128 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>128 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>							総授業時数	3,168 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	128 単位時間	うち必修授業時数	128 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	128 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総単位数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	3,168 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	128 単位時間																																		
うち必修授業時数	128 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	128 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																		
総単位数	0 単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																		
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																		
うち必修単位数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>2人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	4人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																		
計	4人																																		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程の編成については、企業等と定期的に会議等を通じて意見交換を行い、編成・改善を行う。協議内容は、授業教科目の名称や授業内容・方法の改善・工夫をはじめ、放送映画業界の動向をふまえ、働くために必要とされる科目設定・授業内容等とし、授業方法は演習型授業(知識・技術)を主体に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校教育法第133条、並びに学校教育法施行規則189条、及び学校法人21世紀アカデミア理事会の決議に基づき、教育課程編成委員会を置く。この委員会は、教育の質の保証及び改善をするため、専門学校福岡ビジュアルアーツ・アカデミーの教育活動の状況に関する評価を行い教育活動の更なる躍進の為活動をするものである。

教育課程編成委員会で出された意見を基に、専任教員で行う学務会議で其々の意見を審議し、即時対応できるものは学科長がカリキュラムやスケジュールに落とし込む。

校長及び学科担当で、学科間の調整を図り、各学期の始めに行われる講師会及び各学科の分科会で、学校・学科の方向性を示し、授業に反映させていく。問題が生じた場合は随時対応し、より良いものに変更を加えていく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
稲實 洋祐	専門学校九州ビジュアルアーツ 学校長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	—
森本 雅具	専門学校九州ビジュアルアーツ 放送・映画学科学科長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	—
田中 稔	専門学校九州ビジュアルアーツ 事務長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	—
藤屋登	協同組合 日本映画・テレビ照明協会 九州支部代表	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	②
佐々原葉子	イメージフィールド福岡株式会社 代表取締役社長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年5月19日 17:00～18:30

第2回 令和5年12月15日 17:30～19:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

質問:コロナ期間を経て学生の変化について、学生の職種理解と制作現場への参加意識向上の施策について2点

回答:個になれてしまったのかコミュニケーションにおいて不安な学生が増加したように思える。映像制作は協働により成り立つもので、少人数の作業から状況を把握し、作品制作のフローへと繋げていく。職業理解では授業に落とし込み進めている。業界で活躍しているゲストや卒業生を招いて現場の今を届け、参加へのメリット、不安要素を解消しハードルを下げる取り組みを行なっている。

第2回

質問:本年度の進捗と次年度の入学数と傾向

回答:卒業後、東京進出が増加傾向にあり、対策の早期化が年々進んでいる。例年と変わらずの人数だが、動画編集人気が高まっている。課題として、実際の就職としての編集の仕事内容との乖離を全体ワークフローを通して理解を進め縮小する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針			
授業方法は職業実践的な演習型授業(実験・実習・実技)を主体的に行う。特に、産業界や職業人が求められる知識・技能や最新の実務を反映した教育を行うため、企業が学習活動に関わり、相互理解が深められる学習機会(企業実習、企業参加の学内実習活動等)を設定する。			
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容			
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記			
業界が求める技術レベルや人材を育てるため、実践学習を通し、業界の方から学生への指導に必要な課題内容の検討、今後の業界の動向などの意見交換を行い、カリキュラムへ取り入れる。			
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
映像照明技術	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	照明の役割と基本、シチュエーションに応じた映像照明を理解する。	株式会社 九州ハートス
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針			
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記			
教育の質を客観的に保証するために、経済・産業界・放送業界の動向・人材需要に即し、最新の実務の知識・経験に基づく実践的な知識・技術を教授すべく適切に教員に対する研修等を、教職員研修規定により行なう。			
(2) 研修等の実績			
① 専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	映画制作ワークショップ	連携企業等:	イメージフィールド福岡株式会社
期間:	2023年5月19日(金)	対象:	学生・教員
内容:	映画セット・美術、映画演出に関するワークショップ		
研修名:	VTuberを活用した次世代オウンドメディア戦略!	連携企業等:	株式会社Too
期間:	2023年9月27日(水)	対象:	教職員
内容:	VTuberを活用した次世代オウンドメディア戦略! ~企業系VTuber社内運用の裏側~		
研修名:	JAAAクリエイティブ研究会in福岡	連携企業等:	一般社団法人 日本広告業協会
期間:	2023年11月14日(火)	対象:	学生・教員
内容:	JAAAクリエイター・オブイヤー受賞者におけるセミナー		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	サイバー犯罪の対策に関するセミナー	連携企業等:	福岡県警察本部 サイバー犯罪対策課
期間:	2023年6月14日(水)	対象:	学生・教職員
内容:	最新のサイバー犯罪に関する説明や対策について		
研修名:	ビジネスウェビナー	連携企業等:	株式会社Too
期間:	2023年10月20日(金)	対象:	教職員
内容:	アバターが実現する新たなコミュニケーションと働き方		
研修名:	人権・同和研修	連携企業等:	福岡県・学事課、専修学校協会
期間:	2024年2月27日	対象:	教職員
内容:	「不適正な選考事象について」「専修学校における危機管理について」		

(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 映画制作ワークショップ 期間: 2024年6月予定 内容: 商業映画制作に関する講義・ワークショップ	連携企業等: イメージフィールド福岡株式会社 対象: 学生・教員
研修名: UNREAL ENGINEエデュケーションサミット 期間: 2024年11月予定 内容: Unreal Engineを活用した映像制作	連携企業等: UNREAL ENGINE エデュケーションサミット事務局 対象: 学生・教員
研修名: JAAAクリエイティブ研究会in福岡 期間: 2024年11月予定 内容: JAAAクリエイター・オブイヤー受賞者におけるセミナー	連携企業等: 一般社団法人 日本広告業協会 対象: 学生・教員
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: サイバー犯罪の対策に関するセミナー 期間: 2024年度 予定 内容: 最新のサイバー犯罪の説明や対策に関するセミナー	連携企業等: 福岡県警察本部サイバー犯罪対策課 対象: 学生・教員
研修名: リスペクト・トレーニング 期間: 2024年度 予定 内容: スタッフ・キャストが安心して能力を発揮しクオリティの高い作品作りに集中できる職場環境とは	連携企業等: ピースマインド(株) 対象: 教職員
研修名: 人権・同和研修 期間: 2024年度 予定 内容:	連携企業等: 福岡県・学事課、専修学校協会 対象: 教職員

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、卒業生、企業等の関係団体、地域住民などの専門学校と密接に関係するものと理解促進や連携教育により学校運営の改善を図る。限られた時間を有効に活用するために、重点課題などを取り上げ、集中した審議を行っていく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	目的等に沿った運営方針の策定
(3) 教育活動	キャリア教育の視点に立った教育方法などの実施
(4) 学修成果	キャリア形成の効果を把握し学校の教育活動の改善
(5) 学生支援	卒業後の進路に関する体制の整備
(6) 教育環境	教育上または安全の十分な施設・設備の整備
(7) 学生の受入れ募集	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組み
(8) 財務	目的・目標に照らした有効かつ妥当な中期計画的な年度予算
(9) 法令等の遵守	法令と設置基準等の遵守と適正な運営
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献のための学校の教育資源や施設を活用
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己評価と関係者評価の評価差異がどこにあるのか、異なる点を吟味することで、問題点を抽出する。当然、関係者評価が厳しい場合は、本校が行なっていることが伝わっていないか、評価されていない点だと真摯に受け止め、改善・改良を加えていくことに尽きる。今年度は半導体不足に於けるPC等の機材導入状況や、大雨災害が頻発する中、有事の際の学校の備えなど、世情で問題視されている点に対し確認がなされたが、学校側の前向きな対応に安堵されていた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
平田 章裕	福岡県洋菓子協会	令和5年9月1日～ 令和7年8月31日(2年)	業界団体
荻田 英二	(株)荻田商業建築デザイン事務所	令和5年9月1日～ 令和7年8月31日(2年)	卒業生
田中 誠二	オリエンタルホテル福岡	令和5年9月1日～ 令和7年8月31日(2年)	卒業生
福島 眞祐	福岡市博多区博多駅前3丁目2区自治会	令和5年9月1日～ 令和7年8月31日(2年)	自治会長
藤 厚久	福岡県博多女子高等学校	令和5年9月1日～ 令和7年8月31日(2年)	学校長が必要と認めた者
藤井 亨	株式会社Too 福岡支店	令和5年9月1日～ 令和7年8月31日(2年)	学校長が必要と認めた者
小川 倫恵子	アミ・シュプール	令和5年9月1日～ 令和7年8月31日(2年)	卒業生
溝江 多佳子	株式会社イクティス	令和5年9月1日～ 令和7年8月31日(2年)	学校長が必要と認めた者
後藤 大輔	税理士法人アーク・パートナーズ	令和5年9月1日～ 令和7年8月31日(2年)	会計士
吉塚 正希	株式会社映像ボックス	令和5年9月1日～ 令和7年8月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kva.ac.jp/information.html>

公表時期: 2024年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

URL: <https://www.kva.ac.jp/information.html>

公表時期: 令和6年10月31日

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材教養の目標・教育活動計画
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、卒業生数、卒業後の進路
(3) 教職員	各教員の担当科目、校務分掌組織等、教職員の研修・研究活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校・学科の行事(イベント)の取組とその評価結果
(6) 学生の生活支援	就職に関する体制、卒業生への支援体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kva.ac.jp/information.html>

公表時期: 2024年10月31日

授業科目等の概要

(映像音響専門課程 放送・映画学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		ノンリニア編集スキル	PremiereProオペレーションおよびノンリニア編集基礎	1通	128	8	○			○		○		
2	○		CM企画演出I	実際の映像制作を通して業務全体のスケール感やスピード感を体感する。	1通	128	8	○			○	○	○		
3	○		映像表現基礎	映像を構成する表現と手法を実習を通して学ぶ	1通	128	8	○			○		○		
4	○		映画制作基礎	“表現のジャンルの中でさらには映像の他ジャンルの中で「映画」の位置づけを考えられるようになる”	1通	128	8	○			○	○	○		
5	○		番組企画制作	番組制作・構成に関わる基礎項目を学ぶ	1通	128	8	○			○		○		
6	○		ストーリー構成	ストーリーの種類を知り、基本的なストーリーを構成できるようになる。	1通	128	8	○			○		○		
7	○		映像照明技術I	映像照明の基礎用語・オペレーションを理解する	1通	128	8	○			○			○ ○	
8	○		映画史・映像論	主に映画史を通して映像の進化、退化を考える	1前	32	2	○			○		○		
9		○	映像照明技術II	シーンの組み立てから照明プランを考察する	2通	128	8	○			○	○		○	
10		○	映像作品研究	映像作品の幅広さを習得し、自己を分析する	2通	128	8	○			○		○		
11		○	映像制作技術	作品制作を通じて自己表現のスキルを高め、客観的な魅力ある一本を完成させる。	2通	128	8	○			○	○	○		
12		○	映像制作演出	作品制作を通じてカットの構成を中心とした効果的な演出方法を学ぶ。 また、出演者、その他への演技指導の効果的な演出方法を学ぶ。	2通	128	8	○			○	○	○		
13		○	キャリアプランニングI	就活に向けた社会人基礎力鍛錬／コミュニケーション能力の習得	1前	32	2	○			○		○		
14		○	キャリアプランニングII	就職活動で必要となる知識・スキルの習得。	1後	32	2	○				○	○		

15	○	制作演習Ⅰ	映像制作における音声の重要性を理解する	2前	32	2	○			○	○		
16	○	制作演習Ⅱ	グラフィックデザインの基礎知識と技術を習得。基礎力のアップ。	2後	32	2	○			○	○		
17	○	ホームルーム	自分を知り、業界を知る。履歴書完成を目標とする。現場で即戦力になるための個人面談にて個々の評価と課題設定を行う。	1通 2通	128	8	○			○	○		
18	○	リクルートナビゲーション	就活に向けた社会人基礎力鍛錬／コミュニケーション能力の習得	1通 2通	128	8	○			○	○	○	
19	○	コピーライティング	基本的な日本語の構造分析と広告の世界におけるコピーの意義、役割を知る。	1後	32	2	○			○	○		
20	○	映画テクニカルワーク	グループスタッフワークで分業による作品スケールの確保	2通	128	8	○				○	○	
21	○	プリプロダクションワーク	グループでの制作の基本を学び、個人制作からのクオリティーアップを目指す。	1後 2通	128	8	○				○		○
22	○	照明テクニカルワーク	“演出における照明プランおよび機材の選定を理解しクオリティ(スピード)を高める1”	2通	96	6	○			○			○
23	○	番組企画演出	トーク番組をベースにスタジオワークを学ぶ	2後	64	4	○			○	○	○	
24	○	ポストプロワーク	最終フォーマットのクオリティを理解する	1後 2前	96	6	○			○			○
25	○	映像ゼミナール	既存の映像作品を徹底的に論理的に考察、分析しながら、メディアミックスを組み込んだ映像作品を完成させる	2後	32	2	○			○			○
26	○	ファイナルワークA	再度映画制作に制約を設けることで、見つめ直す演出論とそれをクリアするための技術力	2後	32	2	○			○	○	○	
27	○	ファイナルワークB	スキルアップワーク。 企画から台本作成、作品の完成。	2後	32	2	○			○	○	○	
28	○	ライフデザイン	自分を丁寧に見つめ直す、課題を明確にし、今後の人生設計をする。	2後	32	2	○			○			○
29	○	企業研修	現場経験の重要性を理解し、現場での実践を体験する。	1後 2通	672	42	○					○	○
30	○	短期留学	留学の時数(期間)による										○
合計					30	科目				3168	単位(単位時間)		

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：卒業規程単位の取得等、合格条件を満たすこと。		1学年の学期区分	2期
履修方法：各学期毎に行う試験、演習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。		1学期の授業期間	16週